

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第140号(2018.11.1)
事務局 川西地区自主防災会

今月号は外部の皆様をお願いする時間がとれず、つなぎ役として岩崎が原稿を担当しました。

1. かがわ自主ぼうの生い立ち

かがわ自主ぼう連絡協議会が平成30年度防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞した機会にその成り立ちを紹介します。

(1) 設立のきっかけ

平成18年度香川県防災シンポジウムが「広域連携」を主要テーマとして開催された際に、講師の神戸市社会福祉協議会の事務局長さんから、阪神・淡路大震災において広い範囲の連携支援が無ければ復興が難しいという講演を受け、我が香川にも「広域連携」が必要ではないかと当時高松市太田南コミュニティセンター長の吉原和夫氏と三豊市情報センターの斎藤愛一郎氏にご相談申し上げ、結果的に平成19年3月7日川西コミュニティセンターにおいて多くのマスコミにもご出席いただき設立の会議を行ないました。



<かがわ自主ぼう設立出席メンバー>

香川県危機管理課 丸亀市防災対策室 丸亀市消防本部
三豊市情報センター 三木町総務課 e-とぴあ・かがわ
丸亀市立南中学校 丸亀市立城辰小学校 (社)萬象園 JA香川県川西支店
土器コミュニティ 城坤コミュニティ 郡家コミュニティ 飯山南コミュニティ
飯山北コミュニティ 香川マルチメディアビジネスフォーラム

<目的>

香川県内の自主防災組織の活性化を図るため、お互いの連携と交流を深め、今世紀前半に想定される大地震に力を合わせ備えるものとする。

<具体的な活動>

- ・ 人材の相互派遣
- ・ 研修、セミナー等の共同参画
- ・ 資機材の貸し出し
- ・ 広域訓練の実施、ノウハウの相互展開

(2) 設立当時の活動

会報（防災・減災の輪）発行が設立時の大切な活動でしたが、体制がキチンと整っていない当時、大変でした。

・会報の印刷、発送

当時勤務していましたNTTドコモ四国においてカラー印刷を行っていました。当時のドコモにおいては、企業収益が右肩上がりでありましたが、内部経費は抑えていくことに徹底しており、カラー印刷の会報発行に対しては厳しい目線がありました。部数の半分は、お昼休みの時間を利用しての印刷。会員の皆さまへの発送はドコモの封筒、料金はもちろんどコモの経費と私にとって心苦しい時期が約3年続きました。

・かがわ自主ぼう主催によるセミナーの開催

月尾嘉男先生、室崎益輝先生、寒川旭先生等、著名な講師をお招きしてセミナー開催。各種団体の助成金に申請した際、審査過程で分けのわからない団体に助成金はだせないと、何度も言われた事も忘れることができません。

(3) 東日本・熊本・西日本豪雨災害の支援活動

・東日本大震災の支援活動・H23年4月、5月、8月

川西地区のみ参加

・熊本地震の支援活動・H28年4月～5月

丸亀（川西）、高松、坂出、三豊、観音寺、三木町
丸亀市社会福祉協議会

・西日本豪雨災害の支援活動・H30年7月、8月

丸亀（川西、垂水、飯山南、岡田、城坤）
高松（太田南、国分寺、新田）坂出
三豊（詫間、豊中）観音寺、さぬき、東かがわ
丸亀市社会福祉協議会

上記の大規模災害に伴う支援活動も、しだいと支援の輪が広がっており、貴重な体験ノウハウが県内の広い範囲に及んでいくことに期待しているところです。

立上げ当初どこまで継続できるのか半信半疑の状態で行っていましたが、香川県、香川大学、更には各市町、学校関係者皆様のご指導、ご支援のおかげによって、ここまで



走ってこれたものと思っています。今後は、バトンを託していける人材を育て、末永く香川県の地域防災強化の一翼を担ってまいりたいと念じております。

2. 平成 30 年度香川県総合防災訓練を終えて

- ・平成 18 年度から参加させていただいており、当時の新聞に本格派の自主防災会が参加と大きな見出しとなっていたことを覚えておりますが、それ以来、連続で参加をさせていただいております。
当初のバケツリレーにおいて、水元から消火現場までが遠く、走るバケツリレーになったこと、又、初めてのダンボールパーテーション組立の際に苦戦し、組立途中で知事さんはじめとする幹部皆さんの巡視がおいでになり、知事さんから優しいお言葉をいただいたことも、脳裏に焼きついております。
- ・平成 19 年度から小学生児童にも多く参加していただき、多いときには 4 種目ぐらいに参加していただくなど、4~5 年間共に頑張ってきた時代もありました。この種の行事参加、校長先生の防災に対する熱意の表われでもあったかと思えます。
- ・県総合防災訓練において、私達の役割は、訓練会場となる地元自主防災会の皆さんと避難訓練、更には避難所の設営・運営訓練を実施することではありますが、この 3~4 年の取組み姿勢は格段に向上していると思っています。
10 年前と比較すると、大変な成長ぶり、県民皆様の防災に対する意識の差がこの訓練にも表われていると思えます。
- ・川西地区自主防災会として「資機材の展示」を行なっていますが、最初は救出用工具、たきだし用品、備蓄関係、避難所生活用品と発電機類、どこかガラクタ市のような展示が平成 18 年度から 6~7 年続きましたが、ここ 3~4 年は「発電機類」と「照明用機材」に特化しており、大型発電機含め重量物ばかり、中型トラックの積み降ろしに相当なエネルギーを用しておる状況です。
- ・訓練会場（現場）に元気な小学生児童が参加しているのも明日のかがわにつながる様な気がします。かがわ自主ぼうとしても提案の要を検討することも大切でないかと考えるしだいです。



事務局だより

平成30年 11月

今月は丸亀市川西地区の取組みについて紹介します。

丸亀市川西地区の地域作り活動

事務局を担当しています、丸亀市川西地区の活動についてご紹介します。地域づくりに参考になればと思っています。

①シェイクアウトプラスワン訓練

丸亀エリアで5カ所、坂出エリア1カ所、三豊エリア2カ所、高松エリア1カ所、東かがわエリア2カ所を担当します。

②自治会加入推進活動

年間2%増(回復)を目標に取り組んでおり、その施策展開として

ア.自治会加入者(会員)にメリット感をいただける活動として、「かわにしパスポート」を発行。

このパスポート加盟店によって自治会員のみの、各種サービスが得られるようにする。

現在パスポート加盟店9社から年末までに倍増の18~20社にするための企業、商店への営業活動。

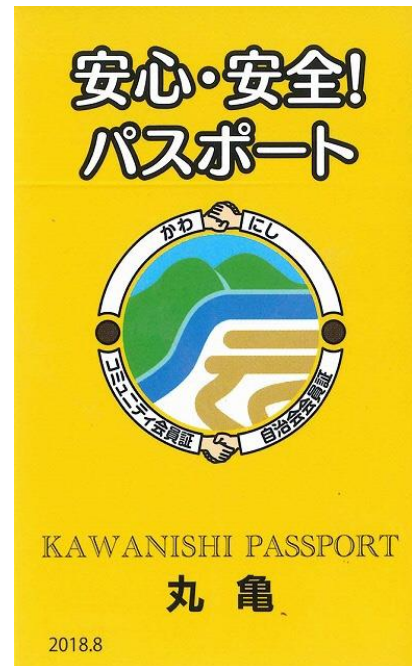
イ.未加入世帯への訪問活動

季節がら気持ちよく対応してくれるものと、共稼ぎ家庭が多いため、週末(土、日)午前9時30分から16時ごろまで、自治会加入を訴えながら訪問活動を行なっています。

お蔭様で本年度新規加入40世帯をこえました。

③赤い羽根共同募金活動が佳境をむかえています

来年度(2019年度)の福祉活動の原資となる共同募金活動丸亀市全体では3,000万円超、川西地区で230万円が目標です。



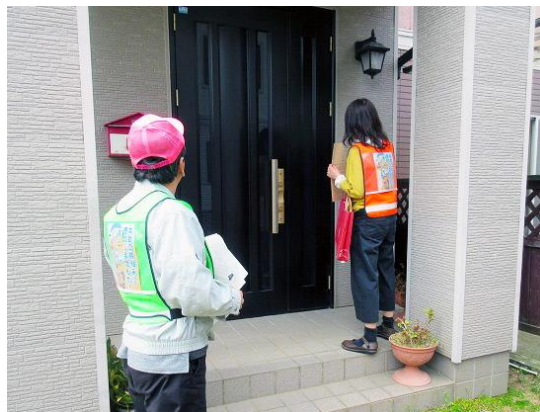
目標達成は日々、企業訪問していただける「法人募金」の成否にかかっています。この活動も根性がいります。

④アドバイザー活動も、「要配慮者家族としての防災対策」

更には「福祉施設の防災対策」「毎年交代の自治会長地域の防災対策」と多種多様なテーマによる講演が11月に予定。原稿作りに追われています。

以上、防災や自治会加入推進関連のほか、恒例の2019版カレンダーの作業、私は写真の選択とその説文の作成ですが、完成(11/30予定)後の配布作業は県内全域で大変な作業となりますが、健康面に留意しながら頑張る所存です。

以上



編集後記

今月の防災減災の輪は、岩崎会長の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。